

会社概要

■商号 日本アジア投資株式会社  
 ■(略称) JAIC  
 ■代表者 代表取締役 松本 守祥  
 ■設立年月日 1981年7月10日  
 ■資本金 4,000百万円  
 ■決算期 3月31日  
 ■本社 〒101-8570  
 東京都千代田区  
 神田錦町三丁目11番地  
 精興竹橋共同ビル  
 TEL: (03)-3259-8518  
 FAX: (03)-3259-8511

■国内支店 西日本オフィス(大阪)

JAICネットワーク



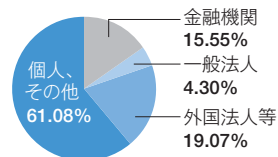
役員 (2011年10月1日現在)

代表取締役 松本 守祥  
 常務取締役 下村 哲朗  
 取締役 細窪 政  
 取締役 法田 真一  
 常勤監査役 金屋 憲二郎  
 監査役 工藤 研  
 監査役 安川 均

株式の状況

■発行可能株式総数 375,362,000株  
 ■発行済株式の総数 119,993,475株  
 ■株主数 10,761名

株主の所有者の状況



注: 当社の自己株式 (1.77%) は「個人、その他」に含めております。

大株主一覧

株主名	所有株数(株)	出資比率
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505104	8,412	7.14
ジェーピーエムシービー クレディ スイス セキュリティーズ ヨーロッパ ジェーピーワイ 1007760	4,194	3.56
株式会社日本政策投資銀行	2,777	2.36
シービーエイチケイコリアセキュリティーズデポジトリ	2,190	1.86
KGI ASIA LIMITED	2,100	1.78
株式会社三菱東京 UFJ 銀行	1,800	1.53
日本証券金融株式会社	1,556	1.32
第一生命保険株式会社	1,100	0.93
クレディ・スイス・セキュリティーズ (ヨーロッパ) リミテッド ビービー セック イント ノン ティーアール クライアント	1,073	0.91
株式会社 SBI 証券	1,018	0.86

注: 持株比率は、自己株式を除いて算出しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
(配当金受領 株主確定日)	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 ※当中間期は無配とさせていただきます。
基準日	3月31日 上記のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人及び 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	http://www.jaic-vc.co.jp ただし、やむを得ない事由により電子公告によることが できない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

- 株主さまの住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にてお支払いいたします。

株主の皆さまへ  
第31期 中間期のご報告

平成23年4月1日から平成23年9月30日

株主の皆さまへ	p.1
社長インタビュー	p.2
経営成績のご報告	p.5
中間期連結財務諸表のポイント	p.6
会社情報・株主メモ	p.7

証券コード: 8518



# 株主の皆さまへ

当中間期の決算と事業の概況をご報告申し上げます。

代表取締役 松本 守祥

株主の皆さまには、日頃よりご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当中間期においては、国内の新規上場（IPO）市況にやや回復の兆しが見られました。当社においても、投資先企業の中から株式上場した企業、もしくは既に承認を受けている国内外の企業が、2011年10月末日現在11社（前期通期実績6社）と前年を上回っています。しかし、低迷する株価や歴史的な円高の影響により、投資回収にとっては厳しい環境が続きました。

その様な中、タイミングを見極め慎重に流動化を進めたため、株式売却益である実現キャピタルゲインは前年同期に比較して減少しました。さらに、8月以降の急激な株価下落を受け、一部の相場済み投資先企業に評価損が発生したことなどから、償却・引当負担が前年同期よりも増加し、営業総利益は赤字となりました。販売費及び一般管理費については、継続的な経費削減策が功を奏し、前年同期に比較して12.1%の削減を達成しています。また負債については、新株予約権付社債を満期償還したほか、9月ま

で18.6億円、10月末にはさらに7.6億円の借入金を返済するなど、着実に圧縮いたしました。経費削減や債務圧縮は進んだものの、投資損益の悪化の影響により、四半期純損失は13億円となり、誠に遺憾ながら当中間配当も無配とさせていただきますことを、ここにご報告申し上げます。

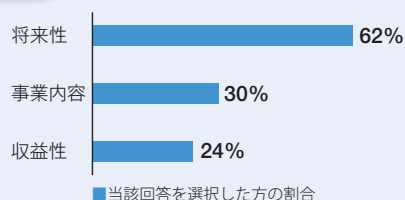
一方で、営業活動は大きく進捗しました。新しいファンドの運用資産を50億円獲得し、新規投資実行額も前年同期に比べ増加しました。「アジアを中心にグローバルに展開する成長企業へ投資する」という基本方針のもと、日本とアジアの両地域に事業基盤を有する強みを活かし、新規優良資産の積上げに注力する体制が整ったと言えます。今後も、投資先企業のさらなる企業価値向上に貢献するとともに、一層の努力により早期の業績回復を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## アンケートご協力の御礼

### 当社の株式を購入した理由は何ですか？

（複数回答、上位3項目）



株主の皆さまにはご協力頂きありがとうございました。当社では、前中間期・前期末の2回、アンケートを実施し、62%の方に当社の将来性を評価して頂きました。また、当社のIR活動の充実については、「ホームページでの情報提供」を希望する声を多数頂きました。株主の皆さまに当社の活動をよりご理解頂けるよう、今後もタイムリーかつ適切な情報提供を目指してまいります。

# 社長インタビュー

Q1 当中間期の外部環境をどう捉えていますか？

## 低迷する株式市場と円高の進行

**国** 内のIPO社数は前年同期比で増加傾向にあるものの、欧州の金融危機の深刻化や米国の債務問題等の影響により、株式市況は低迷しています。また、歴史的な円高の進行による為替の影響もあり、当社を取り巻く投資回収環境は厳しい状況が続いています。

## 投資家・企業家はアジアへ注目

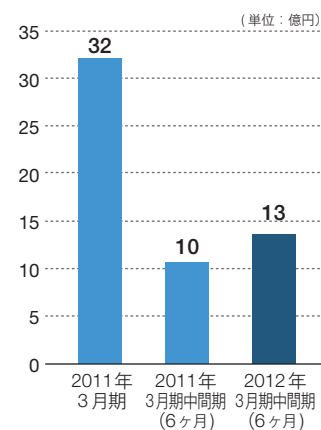
**他** 方、依然として高い経済成長を続けるアジアに対する注目は高く、世界の投資家の資金が流入しています。所得増加に伴う消費需要の拡大も背景に、日本を含む各国の企業がアジア市場での資金調達や事業展開を進めており、多様な投資機会が生まれています。アジアでのプライベートエクイティ投資を原点とする当社にとって、その強みを発揮できる好機と捉えています。



Q2 当中間期の実績について教えてください。

**当** 中間期の投資実行額は13億円となり、IT・インターネット関連やQOL\*関連を中心に、グローバルに事業を展開する企業に投資を行いました。また、米国ナスダックに上場した中国のTudou Holdings Ltd.など、投資先企業のうち計7社が国内・海外でIPOを果たしました。さらに、ファンド運営では前期からの取り組みが実を結び、中国向けのグロースエクイティ\*\*ファンドである「CITIC国電ファンド」や「天津ファンド」の新設などにより、運用残高は848億円となりました。

## 投資実行額の推移



\*QOL (Quality of Life): バイオ、医療機器、医薬品、環境、福祉・介護などの生活の質を高める事業分野  
\*\*グロースエクイティ: 既に確たる事業基盤を有し、次なるステージへの成長機会を求める企業への投資



天津ファンド設立記念式典 (6/27)



瀋陽ファンド基本合意書に調印(7/23)

Q3 最近のアジアでの事業展開について教えてください。

キーワードは  
「グロースエクイティ」「日中連携」

**当** 中間期は特に中国での事業が進捗しました。中国の有力パートナーとの提携により「CITIC国電ファンド」及び「天津ファンド」をそれぞれ設立しました。前者の投資対象は、中国で急速に発展する環境保護・エネルギー関連事業を中国国内で展開する成長企業、一方後者は、日本企業との協業等による海外展開を志向する成長企業であり、既に有望な投資候補先の選定が進んでいます。

さらに9月に(株)日本政策投資銀行と合弁会社を設立し、中国におけるグロースエクイティを強化するための新たな取り組みを始めています。

次なる取り組み

**8** 月に中国瀋陽市人民政府（瀋陽市）とファンドの設立に関する合意書を締結し、準備を進めています。当社と瀋陽市とは、当社の投資活動を通じた産業の育成と中国企業の日本投資促進を目的に包括的な業務提携関係にあり、ファンド設立に向けた側面支援も積極的に行っています。その一環として9月には「第5回中国東北アジア（瀋陽）輸出入商品博覧会」へ参画し、日本企業の出展誘致や博覧会視察ツアーを実施しました。当ファンドの確実な組成と、投資の推進、支援体制の更なる強化により、当社の競争力を高めてまいります。

また、東南アジア向けファンドの設立準備も進めています。今後も中国やその他のアジア各国において、国境を越えた企業間の連携を支援するとともに、海外進出により事業拡大を目指す各国の成長企業への投資を促進していきます。

Q4 今後の成長へ向けた取り組みについて教えてください。

新規優良資産の積上げ

**近** 年の外部環境を受け、ベンチャーキャピタルを含むプライベートエクイティの在り方は大きく変化しました。株式市場のトレンドに左右されずに投資収益を最大化するためには、投資先企業の業績向上のために、資本以外にどのような付加価値を提供できるかが問われています。当社では、優良企業に対して当社の経営リソースを集中させ広範な支援を提供すべく、体制を強化してきました。人的資源の提供や当社の国内外のネットワークを活用した提携の推進など、積極的な経営参画により、各投資先企業に相応しい成長シナリオの策定と実行を支援しています。現在の環境は、当社の強みを発揮できる絶好の投資機会でもあります。将来の収益の源泉となる新規優良資産の積上げを一層促進してまいります。

成長するアジア市場の取り込み

**当** 社は、日本とアジアの双方に事業基盤を有する強みを活かし、アジアを中心にグローバルに展開する成長企業を今後の投資ターゲットとしていきます。特に、日系企業の中国・アジア進出支援や、日本との協業による成長が期待できるビジネスモデルや商品をもつ中国・アジア企業へのグロースエクイティに一層注力してまいります。例えば当中間期では、日本ブランドの取扱いにより業容拡大を目指す、台湾のファッション雑貨の製造小売企業に投資を行っています。

事業パートナー戦略

**ま** た、投資先企業の更なる企業価値向上と、より魅力的なファンドの組成のため、各地域の有力な事業パートナーとの関係構築を引き続き進めていきます。当中間期に設立したファンドが示すとおり、独立系である当社の強みが、中国の大手グループや政府系企業、北米大手のVCなど、多くの優良なパートナーとの協業につながっています。今後もパートナーとの関係を広げ、深化させるとともに、優良案件を獲得し潜在的投資家に訴えるパフォーマンスを積み上げ、ファンド運用資産のさらなる拡大を目指します。

中国での  
主な事業展開

2011年

1月  
瀋陽市ビジネス環境セミナー開催  
「瀋陽経済圏」の成長力や投資環境、日本企業の海外進出支援についての講演。多数の日本の事業会社や金融機関、瀋陽関係者が交流。

4月  
瀋陽オフィスの開設

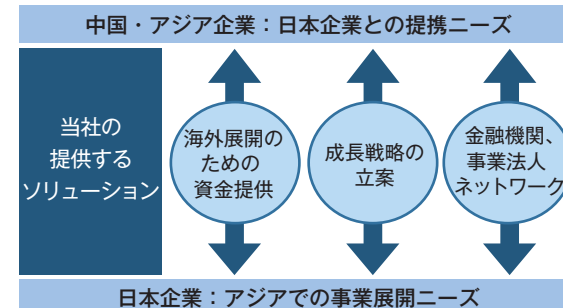
7月  
瀋陽ファンド設立に基本合意  
瀋陽市政府の関連企業とグロースエクイティ向けファンド設立に基本合意。

9月  
政投銀日亜投資諮詢(北京)有限公司を設立  
(株)日本政策投資銀行と合弁会社を設立。中国で行うグロースエクイティを推進。

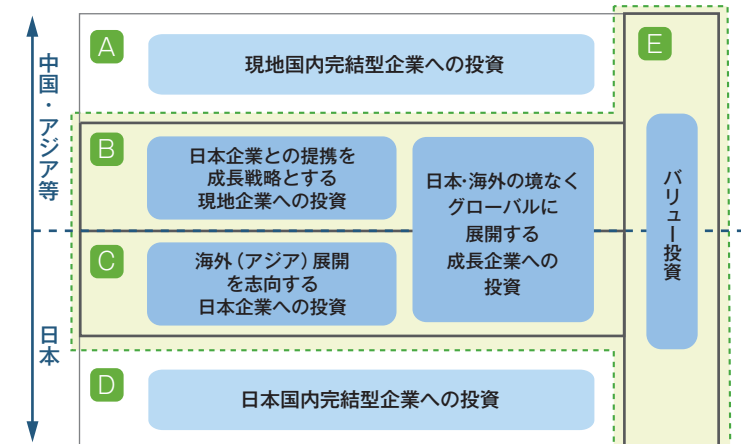
6月  
『北京中電新能投資中心』設立  
CITIC国電ファンド。中国の大手金融機関CITICグループ及び中国五大電力会社の1つである国電グループと共同で設立。

8月  
『日亜(天津)創業投資企業』設立  
天津ファンド。天津市の政府系ファンドと共同で設立。同市の大規模環境都市開発プロジェクトを担う「天津エコシティ」も出資。

当社の事業機会



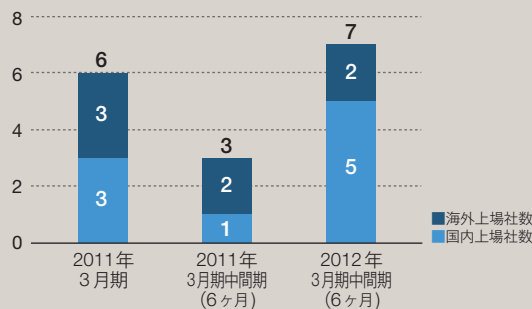
投資領域



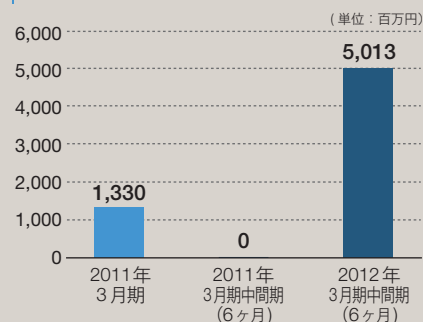
B C E を重点投資領域とします。

# 経営成績のご報告

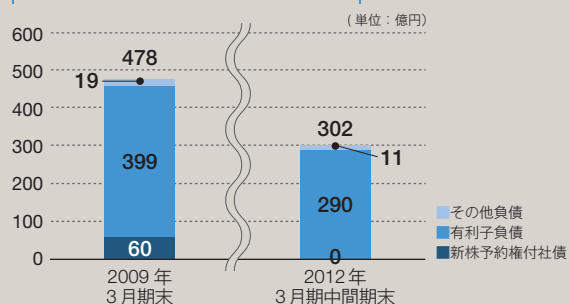
## 投資先上場実績



## 期間中のファンドの新規設立及び資産増加額



## 負債の状況 (従来連結基準\*)



\*従来連結基準数値：連結対象ファンドの当社出資持分のみを計上した数値

## 1. 投資損益の状況

投資先企業からの新規上場(IPO)社数は国内外合計で7社となり、前年同期3社と比較して大幅に増加しました。しかし、各投資先企業について投資回収のタイミングを見極め慎重に流動化を実施したことや、急激な株式市場の下落により一部の上場済み株式に評価損が発生したことなどから、営業投資有価証券売却高は2,209百万円、売却益である実現キャピタルゲインは275百万円、営業投資有価証券評価損と投資損失引当金繰入額の合計は1,053百万円となりました。

## 2. ファンド運営の状況

ファンド新設及び資産増加額は、前年同期には実績がありませんでしたが、当中間期には3ファンド・5,013百万円を達成しました。一方で、満期到来によるファンドの清算や円高の影響による円価換算額の減少があったため、当中間期末のファンド運用資産の残高は48ファンド・84,874百万円となり、その管理運営報酬は210百万円となりました。

## 3. キャッシュ・フロー (CF) 及び負債の状況

営業CFは、継続的なコスト削減策を実施し販管費を前年同期比12.1%削減しましたが、営業投資有価証券の売却が減少したことや、新規投資実行額が前年同期比27.6%増加したことなどに伴いファンドへの出資による支出が増加し、398百万円の減少となりました。

財務CFは、借入金を着実に圧縮したことや、新株予約権付社債の残高を満期償還したため、3,289百万円の減少となりました。

当中間期末の有利子負債の残高は290億円(従来連結基準数値)となりました。2009年3月末のピーク時と比較して、有利子負債は109億円、新株予約権付社債は60億円減少しています。

# 中間期連結財務諸表のポイント

## 連結貸借対照表 (要旨)

科目	ファンド連結基準 (単位: 百万円)	
	前期末 平成23年3月31日	当中間期末 平成23年9月30日
流動資産	44,435	39,766
固定資産	4,301	3,897
流動負債	4,466	4,283 ①
固定負債	31,098	27,484 ①
株主資本	6,956	5,643
純資産	13,171	11,896 ②
総資産	48,736	43,664

### Point ① 流動負債・固定負債

流動負債のうち新株予約権付社債の残高については、2011年9月にその全額を満期償還しました。  
また、固定負債のうち長期借入金の残高は26,654百万円となりました。なお、2011年10月には766百万円の短期借入金を追加で返済しており、着実にその残高を圧縮しています。

### Point ② 純資産

四半期純損失の計上や、為替の含み損益等を表す「その他の包括利益累計額合計」が歴史的な円高の影響により△3,145百万円となった結果、前期末と比較して純資産の残高は減少し、自己資本比率は5.7%となりました。

## 連結損益計算書 (要旨)

科目	ファンド連結基準 (単位: 百万円)	
	前中間期 平成22年4月1日~ 平成22年9月30日	当中間期 平成23年4月1日~ 平成23年9月30日
営業収益	5,659	2,645
営業原価	3,671	3,095
営業総利益	1,987	△450 ③
販売費及び一般管理費	1,174	1,032 ④
営業利益	813	△1,482
経常利益	416	△1,777
中間純利益	△252	△1,313 ⑤

### Point ③ 営業総利益

営業投資資産の流動化を慎重に実施したことや、円高等によるファンドの運用資産減少に伴う管理報酬の減少、また、急激な株式市場の下落による評価損の発生などから、営業総利益は△450百万円となりました。

### Point ④ 販売費及び一般管理費

前期からの継続的なコスト削減策が奏効し、前年同期比12.1%の削減を達成しました。

### Point ⑤ 中間純利益

着実な借入金の圧縮により、営業外費用のうち支払利息は333百万円と前年同期比26.5%減少しました。一方、円高の影響により為替差損が114百万円発生しました。これに少数株主持分利益△327百万円が調整され、結果として、当中間期の純利益は△1,313百万円となりました。